

# 茨城大学学報

第299号

平成23年10月～平成23年11月



今年も多くの方が来場した茨苑祭の様子

## INDEX

- ◆ 第6回茨城大学同窓会連合会総会及び懇親会を開催
- ◆ 職員採用内定通知書交付式を実施
- ◆ 教育学部で東日本大震災ボランティア活動報告会を開催
- ◆ 平成23年度茨城大学学長学術表彰式及び講演会を行う
- ◆ 前田昭雄氏を迎え学術講演会を開催
- ◆ 駐日ドイツ大使講演会を開催
- ◆ JICA 研修員が訪問し学生と交流
- ◆ 永年勤続者表彰式・懇談会を開催
- ◆ 六角堂再建起工式を挙行
- ◆ 第9回茨城大学水交會を開催

茨城大学総務部総務課広報係

TEL 029-228-8008

FAX 029-228-8019

## ◆ 第6回茨城大学同窓会連合会総会及び懇親会を開催



挨拶する久保田会長

平成23年10月1日(土)に水戸キャンパス茨苑会館において、第6回茨城大学同窓会連合会総会が開催されました。

総会は、久保田益充会長の挨拶に始まり、議事として①平成22年度事業及び会計報告について、②平成23年度事業計画及び予算について、③平成23年度役員について佐久間隆代表幹事及び事務局から説明があり、審議の結果、満場一致で承認されました。

その後、会場を茨苑会館「SHIEN レストラン」に移し、懇親会が開催され、茨城大学同窓会連合会、各学部同窓会、職域・地域同窓会及び本学の関係者が45名ほど出席し、池田幸雄学長から大学の近況報告や各学部同窓会及び職域・地域同窓会からの活動報告など、終始和やかな中で情報交換を図ることができました。

最後は、参加者全員で校歌を斉唱し、今後も同窓会と大学が密接な連携を保ちながら、活動していくことを祈念して閉会となりました。

### 平成23年度役員

名誉会長	池田 幸雄	(茨城大学長)
顧問	田代 尚弘	(茨城大学副学長)
"	神永 文人	(茨城大学副学長)
会長	久保田益充	(理学部同窓会会長)
副会長	野口 芳男	(文理・人文学部同窓会会長)
"	堀川 賢壽	(教育学部同窓会会長)
"	臼井 敏雄	(多賀工業会会長)
"	赤塚 尹巳	(農学部同窓会会長)
代表幹事	佐久間 隆	(理学部同窓会常任幹事)
幹事	糟谷 政和	(文理・人文学部同窓会幹事長)
"	佐藤 瑛一	(教育学部同窓会幹事長)
"	山村 靖夫	(理学部同窓会常任幹事)
"	大貫 仁	(多賀工業会理事, 幹事長)
"	黒田 久雄	(農学部同窓会幹事長)
会計監事	金子 一夫	(教育学部同窓会幹事)
"	杉田 龍二	(多賀工業会理事, 財務担当)

## ◆ 職員採用内定通知書交付式を実施

平成23年10月4日、来年4月に採用予定の事務系、技術系職員採用内定者の採用内定通知書交付式を実施しました。

これは、採用内定者に対し、大学への理解を深めてもらい、かつ、採用内定者同士の相互交流を目的としたものです。

本年度は、8月1日付けによる採用者が多いこともあり、少人数での式典となりましたが、採用内定者は、松田栄二総務部長から採用内定通知書を交付され、歓迎の挨拶を受けた後、現在の国立大学法人を取り巻く状況などについての講話を受け、熱心に耳を傾けていました。

その後、先輩・若手職員による社会人生活や大学業務等について懇談形式の質疑応答を行いました。交付式当初は緊張していた採用内定者も、すっかりうち解け、先輩・若手職員へ積極的に質問するなど、大学職員の仕事ぶりや職場について理解を深めることができた様子でした。



挨拶する松田総務部長



先輩・若手職員と採用内定者の懇談

## ◆ 教育学部で東日本大震災ボランティア活動報告会を開催



挨拶する尾崎久記教育学部長

ら、同センターでは「せめて活動の証明書だけでも渡したい」と開催しました。

尾崎久記教育学部長は「震災という体験を通して、みなさん自身も被災者という立場でいろいろ気づいたこともあったかと思います。今回の経験を活かして、これからも勉学に励んでください」と挨拶しました。

続いて、村野井センター長が、全国の附属学校施設の中でも被害の大きかった附属小学校の様子を紹介、当初は今年度中の授業再開も危ぶまれた中、早い時期に再開できたことは学生ボランティアの働きが非常に大きかったと感謝の意を述べました。

教育学部附属教育実践総合センター（村野井均センター長）では、「東日本大震災ボランティア活動報告会」を10月6日（木）に行いました。震災直後、即時に対応できる大学が少ない中、同センターでは、附属学校の他、近隣の公立学校も含め、特に教育現場での復旧作業などにあたる学生ボランティアを募集し派遣しました。

この活動は内外でも評価されていることから、



挨拶する村野井センター長



報告をする岡崎さん（学校教育教員養成課程4年）

ボランティア活動報告では、附属小学校で教育施設の復旧作業や力仕事となった給食配膳の作業を行った社会選修4年の岡崎直也さんが「非常時における現場の先生方の判断や対応は素晴らしかった。教員を目指す上でもとても良い経験になった。普通にできていたことが突然できなくなったときに、互いに助け合って乗り越えることの素晴らしさを学びました」と活動を振り返りました。

また、保育施設の一部に被害のあった幼稚園で子どもたちの保育補助等のボランティアを行った数学選修2年の猪狩沙代子さんは「実家がいわき市で震災直後は何をしたらよいかわからなかったが、自分にできることがあればと参加し、逆に子どもたちに元気をもらいました。少しでも復興の足がかりになればという気持ちでしたが、今後も私ができることをして、子どもたちが元気に過ごせる世の中を目指せればと思います」と語りました。

最後に活動証明書が参加学生一人一人に手渡されました。



証明書を受け取る猪狩さん（学校教育教員養成課程2年）

## ◆ 平成23年度茨城大学学長学術表彰式及び講演会を行う



左から池田学長、山口准教授、増澤教授、鈴木助教、神永理事

10月26日(水)水戸キャンパスにおいて、学長学術表彰式及び講演会を行いました。

学長学術表彰制度は、先進的又は独創的な研究を実施している研究者の特筆すべき研究成果をたたえ、その研究成果と研究内容を学内外に広めることにより、教員の研究意欲の向上を図り、もって大学の研究の活性化と更なる発展を目指す目的で設けられました。

表彰式では、優秀賞を受賞した増澤徹工学部教授、奨励賞を受賞した山口央理学部准教授と鈴木健仁工学部助教に対し、池田幸雄学長から表彰状と記念品の盾が授与されました。

引き続き行われた講演会では、学長並びに学部長等が出席し、受賞者から今回の受賞対象となった研究内容の紹介がありました。この表彰式及び講演会の模様は、日立キャンパスと阿見キャンパスにもバーチャルキャンパスシステムで同時配信されました。

なお、これらの研究成果等が科学技術の研究開発の進展に寄与され、また、大学の使命である「学術研究の蓄積と継承」と「先進的な研究成果の創出」の実現に貢献することを期待しています。

### [受賞理由]

#### ○ 増澤徹教授（工学部）

「非定常CFD解析による磁気浮上型遠心ポンプのインペラに働く流体力の推定」において、前年度の最優秀論文と認められ、「日本人工臓器学会論文賞」を、平成22年11月に受賞しました。

#### ○ 山口央准教授（理学部）

「自己組織化法によるナノ流体システム創製についての研究」において、萌芽的な研究、独創的視点に立った研究等、高度な研究開発能力を示す顕著な研究業績を挙げた若手研究者を表彰する「平成22年度科学技術分野の文部科学大臣表彰若手科学賞」を、平成22年4月に受賞しました。

#### ○ 鈴木健仁助教（工学部）

「超高周波高性能アンテナの高速高精度電磁界解析の研究」において、エレクトロニクスと電子産業の育成と発展に寄与することを目的とする「安藤博記念学術奨励賞」を、平成22年6月に受賞しました。

## ◆ 前田昭雄氏を迎え学術講演会を開催

10月29日(土)教育学部にて、上野学園大学学長でウィーン大学名誉教授の前田昭雄学長を迎え、学術講演会が開催されました。

講演に先立ち挨拶に立った尾崎久記教育学部長が、前田学長のチューリッヒ大学勤務時に同大学に滞在していたという縁もあり、講演会は和やかな雰囲気ですスタートしました。

「知の『わざ学』 大学・音楽・音楽学—東西彷徨五十年を顧みて」と

題した講演では、前田学長がヨーロッパの大学で教鞭をとるに至るまでの運命の巡り合わせや人との出会い、決してあきらめず前向きに目標に向かう姿勢などが、ユーモアを交え語られました。

また、自身の研究についても触れ、作曲家シューマンへの思い、ベートーヴェンやモーツァルトなど西洋クラシック音楽の重要性など未来へ語り継ぐためのメッセージを、集まった80名の参加者に送りました。

講演終了後、参加者からは「前田先生のお話はラジオなどで聞いていましたが、ここ(茨城大)で直接聞けるとは思いませんでした」、「一見穏やかに見える印象とは違い、大胆な行動をされたり、他に左右されず自分を貫きとおすところは日本人として学ぶべき点だと思いました」などの感想があり、前田氏の言葉の旋律に酔ったあつという間の2時間となりました。



熱心に語る前田氏



様々な世代が参加した講演会の様子

## ◆ 駐日ドイツ大使講演会を開催

10月31日（月）、日独交流150周年イベントとしてフォルカー・シュタンツェル駐日ドイツ大使を講師として招き、「復古か 水戸学と幕末期の政治思想」と題した講演会を開催しました。

講演会は、池田幸雄学長の挨拶のあと、佐々木寛司人文学部長による時代背景についてのイントロダクションに続き、日本の幕末史

研究者でもあるシュタンツェル大使が、学生、教職員一般市民約500人を前に日本語で講演しました。シュタンツェル大使は、幕末の歴史に影響を与えた水戸学の成り立ちや、大使自身が博士論文のテーマとした、水戸藩儒学者、会沢正志斎の著書を紹介しながら「西洋からの脅威に対して日本人は、自国が西洋化することはないという強い自信と自意識があり、植民地主義に対抗するなど他に例がない形で成功を収めることができた。」と指摘し、日本とドイツについて、「150年を経て親密な交流が続く両国の根本を知ってほしい」と語りました。

約1時間の講演後は、教職員・学生や一般の方からの質問にも丁寧な回答があり、参加者からの大きな拍手で幕を閉じました。

講演会后、シュタンツェル大使は池田学長をはじめ大学関係者や、水戸学を専門とする鈴木暎一名誉教授らとともに懇談会を行いました。



講演をするシュタンツェル大使



講演後、学生からの質問に答える大使



## ◆ JICA研修員が訪問し学生と交流

11月10日（木）に「算数科における教員の授業実践能力の向上」コースのJICA研修員8名が、日本の算数教育、特に大学教育学部（現職教員養成機関）における教員養成の現状と課題、算数科指導技術の向上に向けた取組についての研修のため、教育学部を訪れました。

橋浦洋志教育学部副学部長、村野井均教育学部附属教育実践総合センター長らの歓迎の挨拶の後、学内施設として、特に電子黒板などの機器に興味を持った一行は、実際に電子黒板に投影した資料画面に書き込みをしたりして操作を体験しました。電子黒板は従来のように、書いたものをその都度、消す前に保存することが可能であり、



JICA研修生ら訪問団のみなさん



実際に機器の操作を体験する研修生

毎回の学習の過程を振り返ることができることや、教科書を拡大して投影しながら説明することで、子どもたちが顔を上げた状態で授業を受けることができる利点などに関心を示していました。

その後、数学選修の学生を中心とした学生らとのグループディスカッションが行われ、教員を志した動機や日本の大学生活と中南米との比較などを中心に意見交換が行われました。

通訳を介してではありましたが、非常に打ち解けた雰囲気の中、熱心な意見交換が行われ、学生にとっても大きな刺激となりました。

昼休みには、野外で演奏を行っていた中南米音楽研究のサークルに飛び入り参加、自国の音楽に合わせてダンスを披露してくれた研修生もいました。

学生食堂にて会食後、午後は小口祐一教育学部准教授による「茨城大学教育学部における算数・数学教員の育成」と加藤崇英教育学部准教授による「日本における教員養成の現状と課題」についての講義を受け、本学を後にしました。



中南米音楽研究会との交流の様子

## ◆ 永年勤続者表彰式・懇談会を開催

永年勤続者表彰式が11月21日（月）、事務局第2会議室で行われ、役員、副学長出席のもと、池田幸雄学長から被表彰者一人一人に表彰状が手渡され、あわせて記念品が贈られました。

永年勤続者表彰は、永年にわたり勤務（勤続20年）し、職務に精励された教職員を表彰するもので、本年度の被表彰者は10名でした。

表彰式においては、池田学長から祝辞として、永年の労へのねぎらいと、今後の活躍への期待が述べられ、これに対し、被表彰者を代表して教育学部附属小学校木野内喜久恵教諭が謝辞を述べられました。

表彰式に引き続き、昼食を取りながら懇談会が開催され、役員、副学長からも祝辞をいただき、また、各被表彰者からの挨拶が行われるなど、終始和やかな雰囲気の中で歓談が行われました。



謝辞を述べる木野内教諭



表彰式後の記念写真

### 被表彰者（50音順、敬称略）

大森 千鶴（工学部事務部[職員]）、小野 貴博（財務課[職員]）、菊池 大介（附属特別支援学校[教諭]）、  
木野内 喜久恵（附属小学校[教諭]）、小泉 崇人（工学部事務部[職員]）、清水 靖弘（理学部事務部[職員]）、  
住谷 浩（附属小学校[教諭]）、高木 輝夫（附属小学校[教諭]）、藤田 裕一（農学部[職員]）、  
安田 裕（企画課[職員]）

以上10名

## ◆ 六角堂再建起工式を挙行

3月11日の東日本大震災による津波で流出した五浦美術文化研究所六角堂の再建起工式を、11月21日（月）流出跡地で挙行しました。

起工式には、池田幸雄学長はじめ大学関係者、茨城県教育長、北茨城市長、茨城産業会議議長、茨城県建築士会等の来賓約40名が参加し、鍬入式などの神事を行い工事の安全を祈願しました。



起工式の様子

本学では、流出した六角堂の資材を引き上げようと6月から4回にわたり海底調査を実施してきましたが、屋根の宝珠や屋根瓦の一部は発見できたものの、木材は回収できませんでした。今回再建する六角堂は、明治38年に岡倉天心が創建した当時に近い形で再建する方針で、来年3月末の完成を目指しています。

続いて開かれた記念式典で池田学長は「六角堂の再建が、茨城県や東日本の復興の象徴となることを祈る」と挨拶しました。



記念式典にて挨拶する池田学長

## ◆ 第9回茨城大学水交會を開催

11月25日（金）に水戸キャンパスにて第9回茨城大学水交會（同大事務系職員OB・OG會）を開催しました。

水交會は、2年に1回開催していますが、今回は東日本大震災で本學が被災した際に多くの會員から寄付等もあり、大學の發展を支えたOB・OG33名及び現職職員37名が参集しました。

總會は、教育学部A棟玄関前での記念撮影後開催され、都賀善信會長の挨拶のあと現職職員の紹介、続いて山本惠一事務局長から「東日本大震災に関する大學の対応について」報告があり、さらに、齋藤勝男社会連携課長から「五浦美術文化研究所六角堂等の状況について」報告がありました。

總會後、会場を移して懇親會が開催され、現職職員も参加して、互いに旧交を温めあいました。

都賀會長は挨拶で「今回の東日本大震災で大學の事務職員が、山本事務局長のもとで一体となつてご活躍いただいたことを伺い心強い限りです。水交會においても會員の皆様の協力をいただきながら大學の發展のお手伝いをしていきたい」と語りました。



總會で挨拶する都賀會長